JACET-Kansai Newsletter

No. 29　August 20, 2005

Chapter President: 岡田　伸夫（Nobuo Okada, Professor, Osaka University）
JACET-Kansai Office: 〒615-8558 京都市右京区西院笠目町６　京都外国語大学 相川真佐夫研究室内
(Masao Aikawa, Kyoto University of Foreign Studies, 6 Saiin Kasame-cho, Ukyo-ku, Kyoto city 615-8558)
Tel: 075-322-6079　Fax: 075-322-6245　E-mail: aikawa@nnc.or.jp　URL: http://www.jacet-kansai.org/
Postal Account：　00940−4−187715 大学英語教育学会関西支部 (Daigaku Eigo Kyoiku Gakkai Kansai Shibu)

授業力の一つとしての文法説明力

支部長　岡田 伸夫

文部科学省の「英語が使える日本人」の育成のための行動計画（平成 15 年 3 月）は、英語教育改善のためのアクションの一つとして国語力の向上をあげています。さらに、国語力の向上の施策の一つとして「言葉に対する意識の高揚」をあげています。言葉に対する意識の高揚は、不思議なことに、英語授業の改善や英語学習に対するモティベーションの向上などが書かれているところにはあがっていないのですが、言葉に対する意識は、実は、日本語と異なる英語を学習するとき（学習者が言語に対して抵抗感をもつとき）が一番高揚しやすいとも言えます。

N. Chomsky (1988) *Language and Problems of Knowledge: The Managua Lectures* は、「言語の教育に限らず、あらゆる教科の教育について言えることだが、教えることの 99%は生徒に教材に興味をもたせることであり、教師の方法論が関与するのは残りの 1%に過ぎない」と言っています。チョムスキーは学習における動機づけの重要性を言いたかったのでしょうが、英語学習の動機づけには、グローバリゼーション時代における英語の国際語としての重要性を考えさせる、実際に英語を使う機会を提供する、入試における英語の役割を考えさせるといった外的な動機づけのほか、言語に対する意識の高揚を目指す英語教育の中で学生に知的発見を体験させるという動機づけもあります。教える人が一方的に何でもかんでも教え込むのではなく、学ぶ人が自ら言葉の諸相を発見する楽しさを体験することができるような授業を展開することが、特に今の時代は大事だと思います。

言語に対する意識の高揚は、文法、語彙、発音、レジスター、文体、談話など、言語にかかわるあらゆる面で展開できますが、文法の領域で使えそうな例には次のようなものがあります。「境界のある 1 個の個体と見なされる名詞には a(n)をつける。境界のない、内部が均質的な物質と見なされる名詞には a(n)をつけない」ということを教える場合には、マーク・ピーターセン氏が『日本人の英語』の中であげた、ニワトリを一羽捕まえて、そのまま食べてしまう状況を使って説明することができます。

(1) Last night, I ate *a chicken* in the backyard.

ピーターセン氏の解説を読んだ学生はこの例が長く記憶に残るでしょう。ピーターセン氏の 23 年前に H. A. Gleason (1965) *Linguistics and English Grammar* があげた、シロアリの母親が息子の偏食について心配している状況を利用して説明するのもいいでしょう。

(2) Johnny is very choosey about his food. He will eat *book*, but he won't touch *shelf*.

現在完了形の current relevance を教えるときには、G. N. Leech (1971) *Meaning and the English Verb* の現在完了形と過去形のコントラストを利用する説明法が使えます。展覧会の開催中なら(3)a、終了後なら(3)b という違いは学生にとって意外でおもしろいはずです。

(3)a. *Have* you *visited* the Gauguin exhibition?
　 b. *Did* you *visit* the Gauguin exhibition?

世界物理年にちなんで、N. Chomsky(1968) *Language and Mind* が使った次の例文をもってきて、その奇妙さに気がつかせることもできます。

(4) Einstein has lived in Princeton.

次の(5)は筑波大学の中右実先生が 2002 年 11 月 23 日に関西支部の講演会でお使いになった例文です。

(5) When Charlie takes a bath, he dries his body *with* a bath towel. I dry my hands *on* a hand towel.

タオルで体を拭くときには、(i)タオルをタオル入れから取り出して使うこともありますし、(ii)タオルをハンガーにかかっているままの状態で使うこともあります。日本語では同じ助詞「～で」で表現しますが、英語では(i)の場合には *with* a towel、(ii)の場合には *on* a towel というように前置詞を使い分けます。タオルを手にとって道具みたいに使うときには with、タオルを場所と見なすときには on というふうに区別するのですが、この区別を学習した後で、次の(6)と(7)の a と b の空所には with と on のどちらが入るかクイズ感覚で考えてみるのも楽しいでしょう。

(6)a. Frieda wiped her mouth (　　) a napkin.
　 b. Frieda wiped her feet (　　) a door mat.
(7)a. The cat scratched my hand (　　) his paws.
　 b. Bears scratch themselves (　　) trees.

思いつくままに例をいくつか見てきましたが、高校生や大学生には、事実をストレートに淡々と、一方的に説明するのではなく、ちょっとひねりをきかせたクイズや

challenging なエクササイズを与えると、乗ってくるのではないかと思います。文法事項を的確に説明するための例を選ぶ力、学生の知的興味をそそる例を用意する力は授業力の一つです。

第９次研究会発足のお知らせ

2005 年６月より、第９次研究会が発足しました。以下、各研究会の連絡先と活動概要をご報告します。原則として、すべての研究会で新規メンバーを募集していますので、希望者は、お気軽に各研究会の代表者に連絡をおとりください。（なお、下記の活動概要は、６月末までにお送りいただいた原稿に基づいています）。最新の情報は支部 HP をご覧ください。

教材開発研究会（２３名）
代　表：小原眞由美
email:　crimson@jd5.so-net.ne.jp
副代表：持留浩二
email:　mochy@d1.dion.ne.jp
連絡先：仲川浩世　hgaeru@yahoo.co.jp

本研究会は短大、大学生を対象とした英語教材の研究開発、出版活動を主に行っています。会員が議論を重ね、具体的な教材案を出し合い、最終的に教材出版という成果が得られます。定例会は１～２ヶ月に１度、同志社女子大学（今出川キャンパス）で主として土曜日に開催されます。

談話分析研究会（１４名）
代表：高木佐知子
連絡先：takagi@lc.osakafu-u.ac.jp
副代表：神田靖子

JACET 関西支部談話分析研究会では、2004 年度は、談話分析関連の用語集の出版を目指した分析発表と談話分析の論文の勉強会を行ってきました。2005 年度も引き続き、分析発表と論文の勉強会を行いながら用語集の原稿作成と編集を進め、出版の準備をしていく予定です。

海外の外国語教育研究会（２７名）
代　表：脇田博文
email:　wh2440@world.ryukoku.ac.jp
副代表：三好康子
email:　ymiyoshi@ma4.seikyou.ne.jp

学習英文法研究会（１１２名）
代　表：山本英一
email:　baaaj307@jttk.zaq.ne.jp
副代表：甲斐雅之
email:　tatsuga@pearl.ocn.ne.jp
リスニング研究会（１６名）
代　表：河内山真理
email:　katayama@kuins.ac.jp
副代表：津村修志
email:　shoooz@excite.co.jp

リスニング研究会では、2003、2004 年度と大学生用テキスト「総合英語パワーアップ」基礎編、中級編を作成・出版してきました。現在も引き続き上級編の作成に取り組んでおります。入会希望の方は、代表河内山までお問い合わせください。

文学教育研究会（３８名）
代　表：吉村俊子
email:　ty3asy@mbox.kyoto-inet.or.jp
副代表：内藤満
email:　m-naitou@joy.hi-ho.ne.jp

当研究会の基本的な活動としては、「文学作品を使った英語教育に関する論文・書物、さらにもっと広い視野から、英語教育、特にリーディングの教授法に関する論文・書物の輪読」と「個人研究の発表」の二本立てとなっている。

リーディング研究会（５０名）
代　表：倉本充子
email:　a-kuramo@it.hirokoku-u.ac.jp
副代表：氏木道人
email:　shiki@d8.dion.ne.jp
事務局：山科美和子
email:　miwaym@wg8.so-net.ne.jp

当研究会では、(1)研究（実証研究・実践研究）発表、(2)学術書・学術論文の輪読会の二本立てを原則に、ほぼ毎月１回研究会を実施しております。

ライティング指導研究会（１６名）
代　表：西嶋久雄
email:　hisnishi@mwu.mukogawa-u.ac.jp
副代表：金志佳代子
email:　k-kinshi@paw.hi-ho.ne.jp

口語英語研究会（１６名）
代　表：横山仁視
email:　yokoyama@kyoto-wu.ac.jp
副代表：鈴木しのぶ
email:　kumash1723@ybb.ne.jp

ESP 研究会（３２名）
代　表：新田香織
email:　nitta-wav@rinku.zaq.ne.jp
副代表：神谷健一
email:　kamiya@ip.oit.ac.jp

英語力指標研究会　（２５名）
代　表：藤林富郎

email: t-fujibayashi@kinran.ac.jp
副代表：田邉義隆
email: yop0307@ybb.ne.jp

2005 年度春季大会ご報告

６月４日に和歌山大学で開催の支部大会には、「現代的ニーズに応える英語教育」をテーマに 150 名を超える参加がありました。大会に各種ご尽力下さいました皆様に御礼申し上げます。

2005 年度秋季大会について

今年度秋季大会は１０月８日（土）に神戸大学で開催されます。テーマは「最近、となりの授業が気になります：英語『授業力』を高める」で、ワークショップ２件、研究発表８件、実践報告１件、さらに「文学してますか？ー大学英語教育に文学教材は必要なくなったのか」と題して、シンポジウムが行われます。プログラムとアブストラクトを同封いたしましたので、是非ご参加ください。

＊秋季大会懇親会へのお誘い＊

プログラムにもご案内の通り、中国レストラン「六甲苑」（電話：078-821-4868）**にて懇親会が開催されます。皆様、奮ってご参加ください。**

会員：事前申し込みの場合
一般会員 ３，０００円 （４，０００円 Beer含む）
学生会員 ２，５００円 （３，５００円 Beer含む）
会員：当日申し込みの場合
一律 ３，５００円 （４，５００円 Beer含む）
非会員：事前申し込み、当日申し込みとも
一律 ３，５００円 （４，５００円 Beer含む）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノンアルコールをご希望の皆さんとアルコール有り（Beerのみ）をご希望の皆さんのそれぞれのご希望にお応えできる形になっております。会員の皆様にはぜひとも事前申し込みをご活用していただきたくお願い申し上げます。申し込み方法は、同封の振込用紙にて御所属と該当金額をご記入いただき、９月２２日までに郵便局でお振込みください。

懇親会費を事前振込みでご送金いただきましたら、当日料金計3,500円(or4,500円)のところ、送金手数料を含む総額は3,000円(or4,000円)＋振込み料70円（同封振込み用紙でのATM振込みの場合60円で3,060円または4,060円）となります。学生会員としてご登録の方は、さらに500円安くなります。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

Invitation to the party:17:40-19:40 at Chinese restaurant 'Rokkou-en' one minute from Hankyu 'Rokkou' station
Participation fee: 3,500 yen (3,000 yen for members and 2,500 yen for student members if paid before the 22nd of Sep.) If you like to drink beer, please add 1,000 yen.

＊ 秋季大会お弁当について＊

土曜日のため、キャンパス内の食堂は閉店しています。また、会場近辺にはレストラン等がございません。お弁当を準備いたしますので、懇親会と合わせてお申し込みください。

お弁当（お茶付・税込み）1,000 円
（事前申し込みのみとさせていただきます。）
（会計担当幹事 藤林富郎 Tomio Fujibayashi）

JACET関西支部共催講演会のご案内

Michael McCarthy博士（英国Nottingham大学名誉教授、JACET名誉会員）講演会
演題：Lessons from the analysis of chunks
日時：10月11日（火）16:30-18:00
場所：関西外国語大学中宮キャンパス（京阪電車枚方市駅から京阪バス8分）
本館2階多目的ルーム
参加費：無料
梗概：This session investigates vocabulary 'chunks' (recurrent clusters of words) in everyday conversation. Common chunks have everyday pragmatic functions such as hedging, discourse marking, responding, etc. Furthermore, many chunks are more frequent than single words which belong to the core vocabulary of English. Chunks force us to rethink the distinction between lexis and grammar and reveal a lot about fluency and the sociocultural nature of language use. They also raise difficult issues for non-native users.

JACET関西支部共催国際シンポジウムのご案内

国際シンポジウム "Phonetics and English Language Teaching"
日時：11月7日（月）10:00-18:00
場所：上記講演会と同じ
招聘講師：Professor John C Wells（London大学教授、JACET名誉会員）、Dr Michael Ashby（London大学上級講師）、 Dr Patricia Ashby（Westminster大学講師）、Dr Bilyana Cubrovic（Belgrade大学講師）
参加費：無料

以上２件の問合せ先：関西外国語大学国際文化研究所
tel. 072-805-2801(代表)
email: iri@kansaigaidai.ac.jp
ご希望の方にはご案内、プログラムをお送りします。

2005年度談話会のお知らせ

10月と12月に以下のように談話会を予定しております。詳細は10月中旬発行の次号ニューズレターにてお知らせいたします。

＊第１回＊

講師：水野真木子先生（千里金蘭大学人間社会学部助教授。専門は通訳論）
演題：第１部談話会「『コミュニティー通訳』の分野で大学教育にできること」
　　第２部ワークショップ「通訳養成法の大学英語教育への応用」
日時：10 月 29 日（土）15:00-17:30(予定)
場所：高槻市立生涯学習センター
（懇親会を予定）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

講師の水野真木子先生は、同時通訳者としての実務経験をいかして通訳の育成、特に、わが国で不足している「法廷通訳」「医療通訳」その他の「コミュニティー通訳」の育成に尽力されています。ご活躍の様子は、以下のホームページをご覧ください。
http://www.kinran.ac.jp/univ/index.cfm/6,395,17,23,html

＊第２回＊

講師：石川保茂先生（京都外国語大学教授）
演題：「『教える内容』以前のこと–授業のスタイル再考–」（仮題）
日時：12 月 10 日（土）15:30-17:00(予定)
場所：コープイン京都２F 会議室
（忘年会を予定）

第 4 回組織構成委員会（8 月 19-20 日開催）報告

岡田伸夫

今回の会議では下記の議案について審議しました。それぞれの議案の中で注目すべき新しい動きが出てきていますので、議事録の形式で各案件の下にそれらを記します。

(1) JACET の財務関係の方針について

・現在特別会計余剰金としてプールしているものを来年度から一般会計に予算化して運用する。

(2) 法人化について

・法人化するということを承認し、副会長、財務担当理事、総務担当理事、代表幹事、副代表幹事からなるワーキンググループを立ち上げることになった。

・2006 年度中の社団法人化を目指すが、どの形態の法人とするかは年末の第 5 回組織構成委員会で詰める。

(3) 会則・内規等の改正について

・すべての案件が会長に集中することを避けるために副会長を１名増員し、2 名とする。

・理事を会員 150 名に 1 名の割合で出すことにする。ただし、各支部１名を下らないものとし、事務所所在地である関東支部には特別枠として 2 名を追加配当するものとする。

(4) 支部規約について

・各支部の規約を共通書式に基づき書き直す。ただし、どのような役員をおくか、役員をどのような方式で選出するか、役員の任期など、各支部の判断に任せるべき部分は各支部に任せる。

次期支部長の選出について

６月４日に行われた総会にて、下記の関西支部支部長選出要領が認められました。この要領にしたがい、本年 12 月 10 日の運営委員会で次期支部長が選出される運びになっています。

大学英語教育学会関西支部支部長選出要領

【選挙権・被選挙権】

第１条　選挙における選挙権は、運営委員会構成員（支部長、理事、評議員、幹事、研究企画委員）が有する。被選挙権は、関西支部において、選挙実施時前年度に登録された個人会員が有する。ただし、改選前年度で任期２期終了を迎える支部長には被選挙権はない。また満年齢６９歳以上の者には被選挙権はない。

【投票】

第２条　投票は、改選前年度に開催される運営委員会に出席した運営委員会構成員により行なわれる。

２　投票の結果、得票のもっとも多い者を支部長候補者とする。ただし、最多得票者の得票数が過半数に満たない場合は、上位２名により、再度投票を行う。

３　得票が同数であった場合は、再投票を行い、この選挙の選出者を支部長候補者とする。

【問題の処置】

第３条　要領の実施にあたり問題が生じた場合は、運営委員会において審議し、その議に従い運用することとする。

【要領の改廃】

第４条　要領の改廃は、運営委員会の議を経て、総会の承認を得なければならない。

附　則　本細則は、２００５年６月４日より施行する。

２００６年度の支部大会について

春季大会は立命館大学衣笠キャンパスにて開催を予定しております（日程は未確定）。発表の応募については、次号のニューズレターに掲載いたします。来秋は、関西外国語大学にて全国大会が９月８日から10日まで開催されるため、支部大会を開催いたしませんので、予めご了承下さい。